

完勝で2議席の自民

順位巡り覇権争いも

参院選 ちば 2022

中

検証

「自民党にとって1、2位で議席獲得した千葉選挙区の結果は良かった。ただ、1位と2位の陣営の受け止めはそれぞれで、ご不満の議員もいると聞く」。参院選を総括した同党県連幹部は、今後影響が出ることに含みを残した。

千葉選挙区は約65万7千票で同党新人の臼井正一氏がトップ、約58万8千票で同党現職の猪口邦子氏が2位当選。合計得票は約124万5千票で、3年前の自民2人の約113万5千票

も上回り、完勝だった。

それでも手放しで喜べないところが党内事情の難しさ。自民県議(50人)の2派閥が両陣営に分かれ、7割超が所属する主流派は猪口氏を支援、約10人の少数派が臼井氏を支援。時に競い、時に反目して戦ったため、両陣営は2人の当選順位もこだわった。

◇ ◇

臼井氏の陣営には、同党県連の浜田靖一会長、少数派の県議派閥と連携する石井準一参院議員らが入った。掲げた目標は「1日1万票を積み上げ、60万票を狙う。1位(猪口氏)に近い2位」。

公示日の6月22日、浜田、石井の両氏は公明党県本部前代表の富田茂之元衆院議員と並び、臼井氏の街頭演説を見守った。石井氏は富田氏との強固な友好関係もフル活用。臼井氏が街頭演説で県内を駆け回り、陣営を支える議員で足場を固め

た。

狙いは開票結果に反映された。県内54市町村別の得票数で、臼井氏は22勝。当初目指した20勝を上回り、地盤の千葉市では猪口氏を引き離してトップ当選に仕上げた。

石井氏は取材に、弾んだ声で話した。「選挙は相手

の動きを分析しながら戦つ

ものだ。こちらはアバウトな戦いはしない。(党内争いや統一選に)当然影響を及ぼす」と県議の主流派閥に揺さぶりをかけた。

◇ ◇

高い知名度を武器に終始先行していた猪口氏の陣営を支えたのは、県議派閥の



参院選の公示日に、県庁前で行われた臼井正一氏の街頭演説を見守った(右から)父で元法相の日出男氏、石井氏、富田氏、浜田氏=6月22日

来春の統一選へ影響か

主流派を率いる同党県連の河上茂幹事長や、派閥会長の酒井茂英県議ら。

陣営には臼井氏側を上回る国会議員、県議が名を連ねたものの、低調な動きを懸念した河上幹事長は「国会議員も県議も多くいる。負けるわけにいかない」と発言を求め続けた。

だが、「首位陥落」の予兆は何度か現れていた。5月11日、猪口氏が開いたパーティーには派閥の長、麻生太郎氏が駆け付けたが用意した席は埋まらず。6月22日の公示日の出陣式の会場でも空席が目立った。

投票日の夜、同党県連事務所が開票速報を見守った河上幹事長は、2人の当確を見届けてからつぶやいた。「猪口氏の陣営は、議員が全然動かなかった」

酒井会長は、支援した猪口氏の2位に「統一選への影響はよく分からないが、今までと同じじゃないか」と淡々と話し、河上幹事長は「国政と統一選は関係ない」と否定していた。

投票翌日、浜田会長は党内影響について「これからは出るかも。様子を見るしかない」とだけ語った。